様式１

【瀬谷区】令和５年第３回区づくり推進横浜市会議員会議　議事録

開催日時	令和５年９月８日　　10 時 30 分　～　12 時 35 分
場　　所	瀬谷区役所５階　大会議室
出 席 者	【座　　長】久保和弘議員 【議　員：　２名】川口広議員、花上喜代志議員 【瀬谷区：３１名】植木八千代区長、池上武史副区長、 嶋崎孝浩福祉保健センター長、 長井真福祉保健センター担当部長、 富永裕之土木事務所長、 安平博災害対策担当部長（瀬谷消防署長） ほか関係職員
議　　題	（１）　令和４年度 個性ある区づくり推進費 決算状況 （２）　令和４年度 個性ある区づくり推進費 自主企画事業の決算 （３）　令和５年度 個性ある区づくり推進費 自主企画事業の執行状況 （４）　令和６年度 個性ある区づくり推進費 予算編成にあたって
発 言 の 要　　旨	○議題（１）～（３） 【花上議員】この区づくり推進横浜市会議員会議は、段々重要性を帯びてきたのではないかと考える。特に、行政区である区役所が非常に重要になってきている。そうした中で区役所も区民の皆さんから極めて頼りにされている行政機関ではないかと思う。今日お集まりいただいている、それぞれの部署の皆さんが尽力いただいていることに心から敬意を表したいと思う。また今後も区民の期待に応える区役所となるよう、尽力をお願いしたい。 　今、コロナの感染状況についてかなり心配されているという声を聞くが、区内の感染状況やワクチンの接種状況について伺いたい。 【瀬戸福祉保健課長】コロナの感染状況については、今年の５月８日から定点観測に変更になりましたが、直近８月 28 日から９月３日の直近の１週間の状況として、瀬谷区の医療機関で把握された患者数は定点当たり 16 です。市の平均は 16.95 ですので概ね市と同様のレベルで、18 区の

	中では10番目となっております。全市ということになりますが、年齢別の患者数として一番多いのは10～14歳、10代前半の罹患が定点当たり2.24で、次いで40～50代が定点当たり２を上回るという状況です。福祉保健課でご相談いただいた高齢者施設ですが、区役所では10人以上の患者が発生した場合にご相談いただくことになっています。週に１、２か所程度報告がありますが、現在のところ重症例は聞かれておりません。また、今週に入って小学校の学級閉鎖を２校把握している状況ですが、こちらも重症例は聞かれておりません。 【松田総務課長】ワクチンにつきましては、令和５年の春の接種はこの９月19日で終了しますが、初回の接種を完了している高齢者の方や重症化リスクが高い方のみの接種でした。これから秋の接種が９月20日から開始されますが、１回目、２回目の接種を完了している５歳以上の全ての方が対象となります。今後接種券が発送されますので、予約センター若しくは直接医療機関にご予約していただくという形になっております。 【花上議員】最近、瀬谷区内でも様々なイベントが再開、復活してご案内が届いている。色々出席して見ている中で、かなり密になっているイベントも目に付く。今後こうしたイベント等でコロナが広がる、感染者が増えるようなことがないように、区役所を挙げて気配り、目配りの取り組みをしていただくよう要望しておきたい。 　今年は関東大震災が発生してちょうど100年ということで、いろいろ防災の報道やイベント等がかなり活発に行われてきたところである。瀬谷区でも各地域の防災拠点で防災訓練等が行われて、我々も参加してきたが熱心に活動が行われていることに心強さ、頼もしさを感じているところである。一方で、なかなか防災訓練が行われない地域があることも目にしている。防災対策について関東大震災から100年ということで、関東大震災級の巨大地震が発生する危険性を指摘する地震学者もおり、いささかも疎かにしてはならないと考える。防災対策について、今区役所として特に重点的に取り組んでいることについて伺いたい。 【松田総務課長】今お話がありましたように、関東大震災から100年ということで、その間大きな地震が発生していない、ですから今地震が起こるかもしれないということを皆さんにお伝えしながら、意識を高めていただこうという取り組みを、広報や防災拠点での訓練でのお話を通じ

	て区役所としても進めています。資料にもありますが、今年は地域防災力向上事業として防災総合講座や、９月 23 日にも体験型防災プログラムを実施させていただきます。様々な機会を通じて、防災の取り組みを発信していきたいと考えています。 【花上議員】これに関連して、地震だけでなく風水害に対する備えもしっかりしていかなければならないが、そのためには消防署あるいは消防団、また地域の民間の防災機関など、総合的な対策を講じていかなければならないと考える。特に地域の皆さん方の協力、建設業協会の方々等との連携は密に図っていかなければならないが、この点について状況を伺いたい。 【松田総務課長】建設業協会の皆さんとの連携につきましては、区役所でも建設業協会の方にお越しいただいて一緒に訓練を行う予定となっております。いざという時にはご協力いただきながら対応してまいりたいと考えています。 【寺井土木事務所副所長】建設業協会、特に瀬谷区会とは連携を図っておりまして、今年度も対話会を行なって意思疎通を深めています。災害時にはパトロール等の要にもなっていただくところですので、特に連携を深めて今後様々な取り組みを積極的に進めてまいりたいと考えています。 【花上議員】くれぐれも日常から連携はしっかり、緊密にとっていただくようにお願いしたい。山中市政になって、特に子育て支援として、「子育てしたいまち　次世代を共に育むまち　ヨコハマ」を作るということから様々な対策を講じているが、瀬谷区役所として子育て支援について特に重点的に取り組んでいることについて伺いたい。 【深見こども家庭支援課長】特に地域との支えあいが非常に大切になっておりますので、地域のボランティアの方々や民生委員、主任児童委員の皆さんのご協力を得られるように、関係機関連絡会等を活用するとともに地域子育て支援拠点にこてらすでの情報発信にも重点を置いて、地域で支えあっていけるような子育て支援に力を入れているところです。 【花上議員】横浜市全体として、国もそうだが、子育て支援に力を入れて政策を進めているという状況がある。瀬谷区も当然それに呼応して、しっかりと子育て支援について体制を組んでいくということが必要だろうと思う。子育て支援と言っても、非常に幅広い取り組みが必要だと考

	えるが、特に今伺いたいのは、せやっこ体験事業を進めていることについて、先般、東京にあるキッザニアという子供たちの職業体験の施設を視察してきたところ、非常に関心が高く、利用者が多いという実態を見聞きした。職業を体験するということは、後々自分がどういう職業に進むのか決める際に非常に参考になるので、横浜市政としても特に取り組んでいく必要があるのではないかと感じた。東京まで行くのも大変だ、という話も聞いているので、是非身近な職業体験として、瀬谷区内で言えば商店もあれば、工場もあり、また公務員の仕事などもあるが、色々な職業を体験する部署もキッザニアには設けられているということなので、子供たちが瀬谷区内で将来の職業を選ぶための職業体験の幅広い機会を作っていくことが必要であると思うが、どのように考えるか。 【松岡地域振興課長】夏休みを活用して、瀬谷区内の企業、農業関係、横浜マイスターの皆さんのご協力をいただいて、小・中学生向けに体験活動を行っています。例えば横浜ステンレス工業さんのご協力を得ながら、実際にステンレスの加工をしてみるとか、相澤良牧場さんで牛の乳搾りから製品作りまでを体験するという活動をしており、非常に高い評価をいただいております。前身の事業ではありますが、横浜ステンレス工業の講座に参加したお子さんが、高校卒業後に横浜ステンレス工業に就職したというようなこともあります。この小学校時代の職業体験というのが今後の進路にも大きな影響を与えていくと思いますので、引き続き実施していきたいと考えています。 【花上議員】今の話を聞いて大変心強いなと思ったが、一方農業についても瀬谷区内で体験する機会があると思うので、横浜の農業、生きていくために必要な農作物が地元で生産されていることについても目を配って機会を作っていただくことも大事である。健全な青少年を育てるための様々な取り組みを区役所としてしっかりとしていただきたい。 　一方で、子供だけでなく高齢者への対策も極めて重要である。最近目につくのは、１人暮らしの高齢者の方が大変増えていることである。伴侶が亡くなって鬱になったケースなど、地域で色々な状態を目にし耳にしている。こうした高齢者の現状を踏まえて、区役所として高齢者に対する取り組みとして、今重点的にどのようなことを行っているのか伺いたい。 【小西高齢・障害支援課長】高齢者の方への支援について、今一番の心

	配事は病気、それからお金が挙げられています。我々のところに相談に来る時には、ある程度意思決定が難しくなっていらっしゃるような方が多くなっています。特に１人暮らしの方ですと、支援が非常に困るようなことがあります。地域ケアプラザと協力しながら健康講座を行ったり、最後まで自分らしく生きるということでエンディングノートを活用しながら、元気なうちに自分のことを考えておきましょうといった講座を行うこと等で支援をさせていただいています。 【花上議員】エンディングノートの話もあったが、エンディングノートの問題とは別に最近よく聞くが、高齢者の方が瀬谷区で暮らしていて孤独に陥らないとか、認知症にならないとか色々と手立てを講じていかなければならないと思う。そういった点では、自治会・町内会の方による見守りも大事であるし、医師会をはじめとする医療関係の皆さん方の取組というのも必要だろうと思う。その仲立ちをするのは区役所であると思うが、こうした今の高齢者の悩みに寄り添って対策を講じていく必要性が段々高まっているが、どうように取り組みを進めているのか伺いたい。 【植木区長】この３年間はコロナで、どうしても「集まる」ということに気を付けられている高齢者の方が多くて、３年の間に外に出るのが億劫になってしまって段々人との付き合いができない、ということも見受けられると思っています。先ほどもお話がありましたように、まだコロナが終わった訳ではありませんので、気を付けながらではありますが、お元気な方がなるべく外に出てこられるように、また地域の中でもお１人暮らしの方、高齢者のみの世帯の方の見守りができるような形でのイベント等が徐々に再開されてきています。区役所としても、そうしたところをサポートしていきたいということと、身近で色々と相談ができるところということで、地域ケアプラザだけでなく、ＬＳＡ（生活援助員）の派遣を行う取り組み等も進んできております。コロナの位置づけも変わりましたので、なるべく孤立をしないように、色々な機会にお声がけをして外に出てきていただきながら、身近なところでご相談いただけるような体制に繋げていきたいと思っています。 【花上議員】そういった姿勢で取り組んでいただくことが非常に大事であるが、そうした中で地域の向こう三軒両隣、自治会・町内会の皆さん方をはじめとする地域との関わり、見守りというのが本当に重要である

	と思う。 　先ほど説明のあった、担い手不足、後継者不足が様々な組織で語られている状況を我々も見てきた。そのように組織自体が段々と弱体化してきている実態を見ると、見守りや助け合いなどがどれほど機能しているのか、今後どうなるのか非常に心配である。この点について、消防署や土木事務所、区役所のそれぞれの部署で活動しながら感じているところがあると思うが、今地域の皆さん方とどのように一緒に課題解決に取り組んでいるのか伺いたい。 【植木区長】消防団については後ほどお答えさせていただきますが、おっしゃる通り、担い手不足ということについて、今までですと例えば60歳で現役を引かれて、その後地域の活動に、と考えられる方が多かったのが、引退の年齢が段々と上がってきているということも１つにあると思います。また、新しい場所に引っ越してきて、いざ仕事をリタイアした時に地縁がないということでお困りであるという話も伺うことがあります。そうした状況を受け、地域振興課の事業において、担い手不足の解消に向けてどのようにしたら地域の活動に入っていけるのか、ここ数年講座形式で行っており、実際に見守りの場所の作り方などで活動を始められているケースもあります。元気でないと担い手にもなる余裕がないということもありますので、まず皆さんが健康に過ごしていただけるようにとうことに区役所として取り組んでいかなければならないと思っています。自治会・町内会の活動に関して、瀬谷区だけでなく全市的にアンケート調査を行ったところ、いろいろな依頼事項が多すぎるという結果がでてきています。行政から自治会・町内会に対していろいろな周知やお願いごとをしているものを何とか整理できないか、ということについて市民局をはじめとして取り組んでいるところでもありますので、そうしたことを含めて全体で地域の担い手がこれ以上減らないように、活動していただく方にとって過度な負担とならないように取り組んでまいりたいと思っています。 　担い手づくりの件に関しては引き続き地域振興課長から、その後消防団に関してご説明させていただきます。 【松岡地域振興課長】全国的に担い手不足が叫ばれている中で、瀬谷区ではコーディネーター派遣制度というものを設けまして、地域に入りながら地域の方と地域の課題を解決し、担い手を探していく方策を考えて

	おります。具体的には、横浜市大の教授の協力をいただきまして、瀬谷第四地区において活動の見直しをする中で、どのような活動が新たにできるのか、若しくは既存の活動を整理しながら新しい活動に繋げられるような工夫を連合自治会、単位自治会の会長の皆さんとお話を進めているところです。 【相馬瀬谷消防署副署長】高齢者に対する安全対策に絡めまして、消防署としても対策をとっているところです。火災であったり、あるいは予防救急の面から高齢者の方々に対する安全対策をできるだけ推進していきたいと取り組んでいます。区連合町内会において連合町内会長さんや自治会の方からご紹介をいただいたり、防災訓練会等の会場、区役所でも資源循環局とゴミ出し支援事業で防災訪問という形で伺った際に、今年度は 47 世帯に対してアドバイスをさせていただいています。また、出前講座として、高齢者のサロンでこちらからお声がけをしてご案内させていただいているという状況です。 【瀬戸福祉保健課長】先ほどお話にありました、高齢者の方の見守りや地域の支えあいという点につきまして、もう１つ取り組んでいるものとして、民生委員の皆さんによる１人暮らし高齢者の地域での見守りがあります。地域の１人暮らしの高齢者の方で自らＳＯＳが発信できない、なかなかされない方もいらっしゃる中で、個々に様子を伺ったりしながら必要な見守り活動に繋げるためのものとなっています。その時には相談のニーズがなかったとしても、いざ困った時にはここに相談ができるという情報をその時にお渡しするというようなことも行っています。また、それ以外にも普段からの地域の繋がりということについて、地域福祉保健計画の取り組みの１つとして、災害時の助け合いを切り口に、顔の見える関係づくりを進めるパンフレットを作成させていただいています。ちょっとしたことから始まる地域の絆として、地域の近所の方同士の見守りを進めていくために取り組んでいるところです。 【花上議員】今、それぞれの立場で高齢者対策について取り組んでいることを聞いて、大変心強く思ったところである。今後もしっかりと取り組んでもらいたい。 　コロナのまん延で地域力が弱っている、弱体化しているということを地域で活動している中で非常に強く感じる。特に自分も自治会の班長を務めて、会合に出席したり、イベントに参加したり、ビラを配るなどい

	ろいろやっているが、区長が言うように、地域の中では自治会にこうしたことまで押し付けて、下請けさせられているといった声を聞くのは事実である。それだけ地域の力は弱っている、昔から比べるとそれはそうであろうと思う。高齢化が進み、１人暮らしもかなり増えてきていて、自治会の役員のなり手がいないという実態もあって、ビラ配りなどのいろいろな活動につけ、地域が非常に弱っているということについて実際に感じているところである。そうなると、役所に頼るという流れになってくると思ので、地域力が弱体化したところを補うために、市役所・区役所がどれだけ手を差し伸べていくのか、知恵と工夫が必要な時代になったのではないかと思うがどうか。 【植木区長】地域においてコロナで経験が途切れてしまって、どうやっていいのか分からないといった声もいただいています。公のところだけでなく、まず地域の中でお互いに見守り合えるようにするために、どうサポートしていけばいいのかということで、お手元にお配りした「顔の見える関係づくり」のパンフレットにあるように、何も特別なことが必要なわけではないんですよ、日頃の近所のお付き合いの中で気になることがあったら、区役所にお繋ぎいただくだけでも助け合い、見守り合いになるんですよということをお伝えしていければと思っています。きめ細かい日常のお困りごとなどについては、どうしても区役所に相談に来ることが高いハードルになっていらっしゃる方もいるので、なるべくご近所、地域の中での見守りが続くように、自治会・町内会や民生委員の皆様をしっかりとサポートしてまいりたいと考えています。 【花上議員】先ほど健康な高齢者という話があったが、高齢者の健康を守る、健康というキーワードが非常に大事であると思う。そこで、先ほど説明のあった健康遊具のチラシを作って 10 月から配布するということについて、これは聞き逃してしまうような話かもしれないが、私にとっては非常に大事な話である。以前横浜市は、箱モノをどんどん作って、スポーツセンター等も大金をかけて作ってきたが、施設、ハードを作ればよいというものではなくて、身近なところで区民の皆さんが健康づくりに親しむということはとても大事である。私が今から 10 数年前に中国の大連の大規模公園に行った時に、公園の中に健康器具がずらっと置いてあったのを見た。公園に来た方がそれを使って健康づくりをしている姿を見て、これは非常に大事なことだと、スポーツセンター等の建物を

	作ってそれで健康づくりというような考え方を当たり前として捉えていたが、中国に行って改めて考え直させられた。帰ってきて議会の場で、公園の中に健康づくりの器具を置いて、身近に健康づくりができるような工夫が大事なのではないかと訴えて、今横浜市内の公園の至るところに健康器具が作られている。その重要性をまだ認識されていない方が多いと思っていたので、健康遊具のチラシを作るのは時宜を得た取り組みだと思っている。そこでチラシの内容について伺いたい。 【寺井瀬谷土木事務所副所長】区内の各公園にも非常に多くの健康遊具が設置されておりますが、おっしゃる通りなかなか知られていない状況で、特にどこの公園に何があるのか、これまでお伝えできていませんでした。チラシのデザインは作成中で今お見せできませんが、地図上に公園とそこにどんな健康遊具があるのかを示して、分かりやすくマップ化しながら、代表的なものになってしまいますが、使い方の一例のようなものを盛り込みます。できれば持ち運んでいただけるように、折りたたんでポケットに入るようなものを予定しています。できれば多くの方にお配りしたいため、イベントを中心に配布を予定しており、瀬谷フェスティバルには間に合せたいと考えています。より多くの方に見ていただいてお使いいただきたいと思っています。 【花上議員】最後に、GREEN×EXPO 2027について伺いたい。TICAD、アフリカ開発会議がまた横浜で開催されることが決まったが、学校ごとにアフリカのそれぞれの国のイベント等を行って、横浜市全体でアフリカ問題について意識を共有していくというような取り組みが非常に効果があったと聞いた。それと同じようにこの花博においても、各小学校、中学校、幼稚園、保育園を含めて、子供さんたちにこの横浜の瀬谷で花博を開催することについて意識を持ってもらい、機運を高めていくことが非常に大事であると思う。今、教育委員会事務局が考えていることかもしれないが、瀬谷区でもこれについて、隼人高校も含めた各学校、幼稚園等と連携をとって機運の醸成、そして成功に導くための取り組みを進めていくべきではないかと思う。また、もう１つは、瀬谷区役所の庁舎にGREEN×EXPO 2027が開催されるという懸垂幕、横断幕を掲げたらどうかと思う。区庁舎の入口に映像を流しているのを見るが、あまりインパクトがないので、区役所や消防署に来た人たちが、ぱっと見て庁舎にGREEN×EXPO 2027が上瀬谷で開催されるということが一目瞭然で分かるような

	ものを設置してはどうか。以上の２点について伺いたい。 【吉原区政推進課長】現在子どもたちを対象としたGREEN×EXPO 2027の機運醸成の取り組みとして、瀬谷区では小学生花育成キットを配付して、花への関心を高めてもらう事業やたねダンゴという種を入れた土の塊を用いて、各保育園で花の栽培、育成を行っていただく事業等を行っています。GREEN×EXPO 2027のテーマは花だけではなく、緑や農、SDGｓ、環境と様々なものがありますので、様々なテーマへの関心が高められるように取り組みをさらに進めていきたいと思っています。また、お話をいただきました、いわゆる１校１国運動の取り組みについては、今後GREEN×EXPO 2027の詳細なコンテンツが明らかになると、例えばそれぞれのテーマに則した取り組みを各校で実施できるのではないかと思っています。国際園芸博覧会協会の広報計画によりますと、来年度からはコンテンツ認知拡大時期に入ると聞いておりますので、協会の動きなども見据えながら取り組みを考えてまいりたいと思っています。 【植木区長】横断幕については、随分古いものが公園に掲出されています。今回、略称のロゴマークが出来ましたので、都市整備局で全市分の横断幕等の作成をしていると聞いています。横断幕等が届き次第、特に来庁される方にしっかりと見ていただけるように掲出してまいりたいと思っています。イベント等でバックパネルを使うケースがあると思いますが、今回各区でということではありましたが、瀬谷区でも区のシンボルマークも使って既に作成しており、今後様々なイベント等で使いながら広報を進めてまいりたいと考えています。 【花上議員】花博という名称が使われていたことから、花がメインに思われていたが、次第に内容が詰まってきて、将来の地球全体の環境問題に結びつくような、SDGｓをはじめとする奥深いテーマであることが明らかになってきた。それだけにGREEN×EXPO 2027を成功させるために、しっかりと横浜市全体で国とともに取り組んでいくという姿勢が非常に大切であると思う。そうした意義、特に国連のグテーレス事務総長が言ったように、地球温暖化どころではなく、地球沸騰の時代というような表現まで使う危機的な状況の中で、花博が３年半後に開かれるという意義は極めて重要であると思う。それを横浜のこの瀬谷で開催するという意味を皆で共有することが重要であるので、瀬谷区役所を挙げて成功に向けて取り組んでいただくよう、最後にお願いをして終わりたいと思う。

	【川口委員】全体に渡るところから質問させていただきたい。４年後を想定すると2027年９月はGREEN×EXPO 2027が終わるタイミングである。我々、市議会議員は幸か不幸か、４年という区切りが非常に早く感じられるため、４年後のGREEN×EXPO 2027が終わるタイミングというのは、あっという間にきてしまうのだろうなという肌感覚を持っているところである。先ほど花上議員からもGREEN×EXPO 2027について質問があったが、それも含めて私からも質問させていただきたい。 　まずは、今回からmore NOTEが使えるということでiPadを持ってきたが、区役所にはWi-fiが整備されていないのか。 【松田総務課長】私も今、手元でノートパソコンを持ち込ませていただいておりますが、セキュリティ等を考慮して区職員がYCANに繋げるための無線回線となっております。公衆的なLANは繋がっていないという状況です。 【川口議員】今の時代、Wi-fiを多くの方に使ってもらえるのが当たり前になってきているように思う。市民局等からの支援がないと、区役所でなかなか取り付けるのは難しいところもあると思う。我々も尽力するので、こういったことをきっかけとして誰もが使えるWi-fiを広げていけたらと考える。GREEN×EXPO 2027も絡めて、区役所からも大きな声を上げてもらいたい。 　次に、冒頭今日の台風についての状況説明があったが、海軍道路の桜については昨年から常任委員会等で話をさせていただく中で、桜が老木化していることが明らかになってきたと認識している。つまりは、台風やいつ起こるか分からない大地震によって、あの海軍道路の桜が今この瞬間にでも倒れてしまう可能性がある、或いは枝が折れてしまう可能性がある。大きめの枝であったのなら、道路にそれが落ちてきた場合、以前もそのような事故があったと思うが、車や人に当たってしまうということもある、或いは車の通行に支障をきたす危険性があるということを皆さんも重々承知していると思う。この台風などの際に、特に多くの近隣の住民の皆さんにも啓発をしていかなければならない、警鐘を鳴らしていかなければならないと思っているが、現状そのようなことを行っているのか、またこれからどのようなことを考えているのか伺いたい。 【富永土木事務所長】海軍道路に限らず、区内の桜並木は野境道路と海軍道路の２か所がありますが、他の区では毎年の実施は出来ていない樹

	木医診断を、瀬谷区では毎年行っています。おっしゃるように公衆災害が心配ですので、昨年度から業務のサイクルを早めて、年度内に危険なものと健康なものを判定して対応できるようにしています。現場に行っていただくとお分かりいただけると思いますが、現在、診断した結果、手を入れなければならない樹木には赤いテープを巻いてあります。気象警報発令時には、赤いテープを巻いたところは必ずパトロールするようにしています。今年は既に精密診断を終えて詳細を把握し、台風シーズンには伐採作業が行えるよう、早めに手を打っているところです。テープは我々が管理のために巻いているものですが、周囲の方が見ても分かるようになっています。土木事務所の所員全員が要注意樹木が分かるようにして、パトロール体制を強化しているところです。近隣の住民の皆様に対する情報発信としては、この木は伐採予定ですという現場樹木へのパウチによる貼り紙表示にとどまっていますが、今後の対応については所内で情報の出し方も含めて検討してまいりたいと思います。 【川口議員】おっしゃるとおり、桜に今ピンク色のテープが巻かれて札も掛けられているのを拝見している。当然近くに行った方は何らかの視覚的要素で、何か危ないんだなというのが分かると思うが、とにかくランニングをされる方が多い場所で、特に夜ランニングされる方も多くいることから、台風や地震によってその瞬間だけでなく、そこで弱った枝や幹が数日後に倒れたり、折れてしまう可能性も十分にあり得ると思っている。そうなってくると、人命にも関わってくる案件であるので、周囲に対する啓発、警鐘というものをタウン誌や車でアナウンスすること等が必要であると、昨年の常任委員会を通じて感じたところである。ステップを上げて、ギアを上げて考えていただけるとありがたい。 　先日も区長と御相談させていただいたが、花上委員からも話があったように、肌感覚として、３年ぶりに様々な行事が復活してきている。暑い時期、酷暑と言われている時の野外のイベントに関して、地域の交流というのはとても大切なことなので、行事をなくせというようなことは絶対に言ってはいけないと思っている。一方で、酷暑と言われるような日が続いていて、しかも、３年ぶり、４年ぶりのイベントがどんどん増えてきており、暑い中どうしても外での活動というものはなかなか難しい日ではあるが、皆様が外で活動されるようなイベントに何回か我々も参加させていただいているところである。これは本来、横浜市の中でも

	検討していただきたいような案件であるが、現状、今、区でこういったイベントをやる際には、熱中症への注意喚起など警鐘を鳴らすようなコミュニケーションは取っているのか。 【松岡地域振興課長】実際にイベントにお伺いしていると、本当に暑い中皆さん頑張って準備をされ、本番に臨まれています。地域の皆さんからは「本当に暑くて大変だ」というようなお声が聞かれ、「夏祭りではなくて秋祭りのほうがいいんじゃないか」という声も複数聞かれているような状況です。そのような中、イベントを実施するにあたっては、この暑さ対策として、まずは運営される御自身の水分補給や塩分補給を、それから参加されるお客様である住民の皆さんへの配慮について、区としてお願いをしているところです。また、一部の自治会においては、ミストの発生する機械を設置して、対応しているというようなこともありますので、今後啓発だけではなくて、物理的な支援も検討していきたいと思っています。 【川口議員】今の質問に紐づいて、熱中症による搬送がどれぐらいあったのか教えてもらいたい。 【相馬瀬谷消防署副署長】５月１日から９月３日までの速報値で、横浜市内では1,294件、瀬谷区内では49件の搬送がありました。やはり７月、８月が多く、いずれの月も区内での搬送が22件ありました。 【川口議員】この数字が多いのか、こんなものなのかというのはそれぞれ受け止め方があると思うが、私自身は多めであると感じている。 　自治会の中で様々な工夫をしていこうとする雰囲気があるということを今、松岡課長からもお話しいただいた。我々や区役所から、７月、８月の屋外でのイベントは行わないでください、ということは到底言えない中で、例えばテントの数を増やしたり、セレモニーの時はそのテントの中に入っていただくなどの工夫を、我々からも区役所からも促していくことが少しずつできるような体制を取っていかないと、場合によっては命の危険もあり得ると思っている。お互いにそうした工夫を行うことができればと思っているので、今後ともよろしくお願いしたい。 　次に、GREEN×EXPOについて質問させていただきたい。 　今年も建築・都市整備・道路委員会に入らせていただいて、様々な説明を事前に受けている。その中で今も見渡してみると、皆様の中でも花博、GREEN×EXPOのバッジを付けている方もいらっしゃる中で、公式ロゴ

	は別にあるなど、非常に分かりづらい。今、この区づくり推進横浜市会議員会議の場で皆さんと対面させていただいて、世界的なイベントが瀬谷区で行われるといった時に、自身の考えでは、この会議も含めて区役所の皆様とは今までとは違う向き合い方をしていかなければならないようなフェーズに入ってきていると思っている。 　例えば公式ロゴと略称ロゴがあり、プロモーションをこれからどんどんしていかなければならない現状で、区民の皆様からの反応や御意見はあるのか。 【植木区長】こちらの新しいロゴの運用については、区役所ではまだバッジも部長級以上のみに配られている状況です。公式のロゴマーク、略称のロゴマークがありますが、瀬谷区としては、区民の皆様にまずどういった博覧会があって、それを楽しみに待ってもらうというのが一番であると思っています。またもう１つ作るのかというご意見もあるかも知れませんが、皆さんに大変愛着を持っていただいてるキャラクターのせやまるのGREEN×EXPO 2027バージョンのものを作って、色々な機会でＰＲに使っています。 　例えば、ではありますが、８月27日にちょうど1300日前ということで、二ツ橋公園においてイベントを実施しました。その際に、皆さんに農に親しんでいただこうという趣旨で、今回はラディッシュの種をいらした方にお配りをさせていただきましたが、その袋にもせやまるのGREEN×EXPO 2027バージョンのものを大きく入れて、皆さんに手に取ってもらう形の取り組みも進めております。また、推進協議会と一緒に進めていることになりますが、今ちょうどせやまるのオブジェを作成しているところです。瀬谷区としては、公式のロゴマーク、略称のロゴマーク、市全体で統一して行うものももちろんありますが、そういった形で区民の方にまず親しんでいただけるようなせやまるを含めたＰＲを行ってまいりたいたいと考えています。 【川口議員】今、皆様に親しまれ、共感を持ってもらっているキャラクターであるせやまるを活用して、GREEN×EXPOを周知しようという話を聞かせていただいて、そのやり方というのは「あっ、それはそうだな」と感じたところである。ただ、自身がやはり違和感を抱いているのは、略称ロゴマークに一切緑が使われてないとか、ロゴマークが２つあることで何をやろうとしているのかぼやけてしまうという点である。これから

	横浜市の中で、また当然、都市整備局に対してもそういった声を上げていくつもりではあるが、例えば区づくり推進横浜市会議員会議の場においても、そうしたコミュニケーションを図ってもらえると有難い。 　先ほど花上議員からも話があったが、花博、GREEN×EXPOは、ただ花と緑を楽しむようなイベントではなく、先日の議会における議案関連の中でもＧＸという言葉がキーワードとして特に出てきたところである。当然花と緑を楽しみ、親しんでいただきながら、ＧＸという言葉は自身も説明し切れないが、ＧＸというものを見据えると、瀬谷区の魅力を世界中の多くの人に伝えるツールがＧＸであるのかなと思っているところである。したがって、今後もう指標として出てしまったＧＸを活用していかなければならないと思う。先ほどの質問とも少し重複する部分もあるが、この点について、今の段階で何か見解や発想があるのか伺いたい。 【植木区長】区としてはもちろん、横浜市としても初の万博ということで、今一生懸命広報をしているところです。やはり開催地である瀬谷区としてどう広めていくのか、まず区民の皆さんにどう楽しみにしていただくのかという観点から、「万博が来ることによって日常の生活がちょっと心配だ」というお声をいただいている方に対しても、万博を楽しみに待っていただけるような広報をまず行ってまいりたいと思います。その上で、色々なＧＸの話や先ほど花上議員からもお話のあった地球沸騰というような言葉も出てきていますので、そういったところを自然とうまく調和を取りながらどう進めていくのか、これから将来のあるお子さんたちにどう興味を持ってもらうのか、来年度以降の区づくり推進費予算においても考えてまいりたいと思います。 【吉原区政推進課長】今、区長からもありましたが、テーマとしては花だけではなく農や脱炭素、更にはＧＸなど環境に係る様々なものがあると考えています。ですので、まず我々ができることとしては、先ほども答弁させていただきましたが、花だけではなく、農であるとかGREEN×EXPOにつながる様々なものに関心を抱いてもらえるような事業を展開して、なおかつそれも子供向けのものや、更には子供も大人も楽しめるものなども考えております。今後も更に脱炭素の視点の事業を加えること等で、地道に区民の皆様の興味関心を醸成するような取り組みを展開していきたいと考えています。 【川口議員】昨日今日で出てきたＧＸという言葉であるので、これから

	どんどん推し進めていただくことになるかと思う。ただ花を愛でる、ただ農業に親しみを持ってもらうということも大切であるが、その横串を刺す言葉がＧＸになってくると思うので、脱炭素や地球を思いやるというような気持ちも伝えられるような、そんなイベントにも組んでいただけると有り難い。 　それに関連して、例えば資料 49 ページにある国際園芸博覧会機運醸成事業において、GREEN×EXPO 2027 という言葉を使えないものなのか。また、瀬谷区推進協議会のところでも、「国際園芸博覧会」のフレーズが使われているが、世界中に広まる言葉はどちらかということになると「国際園芸博覧会」ではなくて「GREEN × EXPO 2027」、それを目指して世界から人がやってくるというような、そういった名称になってくると思うので、この名称に統一する工夫をしていかなければならないのではないかと思うがどうか。 【植木区長】御指摘のとおりかと思います。GREEN×EXPO 2027 の名前が決まったのが今年の２月でしたので、今年度の予算書には反映ができない状況でした。これから 2027 年に向かって開催がだんだん近づいてくる中で、そういった名称の統一性も図って、来年度の予算を考えていきたいと思っています。 【川口議員】先ほど花上議員のほうからもあったが、農体験の事業の時に、これは瀬谷区だけの話だけではなくなってくると思うが、瀬谷区の生徒さんや区民の皆様がこの事業を通して、花や緑、農業に親しんでいただくという体験をしていただくことは、当然今後も続けてもらいたいと思っている一方、他の区からも瀬谷区に来ていただいて、瀬谷区の緑や農業に親しんでいただくような機会が今後生まれる可能性は十二分にあると思っている。そうなっていった時に、今まで区役所として培ってきたものが発揮されるようなタイミングが来るのではないかと考えている。今、区役所の中ではそういった連携についての話は出ているのか伺いたい。 【植木区長】瀬谷区の中で行われますが、横浜市としても取り組んでいくということで、例えば広報ひとつにしても各区でバラバラにやるのではなくて、色々な場面で一緒にできないかというような話は進めているところです。例えば、今年の春には、オープンガーデンに関してそれまで４区ばらばらで広報していたものを連携して行いましたが、それもこ

	のGREEN×EXPOの機運醸成の一つと捉えています。特に横浜市の中でも瀬谷区の知名度を上げていくという部分において大いに資するものだと思っていますので、そうした形で他区と調整を図りながら、様々なノウハウを取り入れて全体で検討させていただければと思います。 【川口議員】例えば、瀬谷っ子体験事業の農業など、今まで築き上げてきた人間関係などがあると思う。他の区の小学生が瀬谷区の事業を体験してみたいだとか、瀬谷区の魅力を味わってみたいというようなオファーが他区、あるいは教育委員会から来たときに、「それだったらこの方を紹介させていただきます」という橋渡し役は十二分にできるのであろうと考えている。今まで培ってきた経験、体験というものを更に更に生かしていくタイミングが間違いなく来ると思うので、御検討をよろしくお願いしたい。 　またウォーキングについて、他の区がどのような形でウォーキングに取り組んでいるのか分からないが、瀬谷区の通信施設がどのような所なのか、歩いて見に来る可能性も十二分にあると思っている。そうしたときに、「この道路が危ない」だとか、「この道路が歩きやすい」だとか、そういった情報を提供するということは必要ではないかと考える。おそらく多くの区民、市民の方がやってくるので、そのときには区役所がハブ機能を持って情報を提供して、より安心で快適なイベントに繋がるようお願いしたい。 　瀬谷っ子体験事業について改めて勉強させていただきたいが、農業や商業、工業の受入れ先というのはボランティアでやっていただいているものか。 【松岡地域振興課長】それぞれの企業、団体、個人の皆様におかれましては、委託契約を結んで対価をお支払いしています。 【川口議員】本来だったら幾ばくかお金を稼ぐことができるはずの時間を割いて、区民のために横浜市のために日本のために協力していただいているところであるので、その考えを継続してもらいたい。 　ボランティア促進事業について、これは誰がどこに呼び掛けて、どれぐらい集まっているものなのか、その現状をまず教えてもらいたい。 【松岡地域振興課長】主体としては、区の社会福祉協議会がボランティアセンターとして行っているもので、それに対し区は、主に中高生向けのボランティアの体験促進として夏休み前にＰＲ活動を行っているほ

	か、秋、時期によっては冬になりますが、ボランティア交流事業としてボランティアに参加した中学生、高校生の交流体験を行っており、昨年度は30名程度の方が参加しています。 【川口議員】今30名近くの方が集まっていると伺ったが、どこまで区役所として伴走するのか。 【松岡地域振興課長】繰り返しになりますが、区の社会福祉協議会が中心となって行っているもので、伴走としての役割は導入の促進で、夏休みの前にボランティア活動の受入れ先の紹介をすることと、数は減ってきてはいますが、ボランティアの活動記録の証明も行っています。 【川口議員】次に、農福連携事業の検討について、進捗状況を伺いたい。 【瀬戸福祉保健課長】今年度の取組としては、６月１日に区内の障害者施設の方２組と農福連携を行っている施設に実際に訪問して、現場視察と勉強会を実施しました。現場視察では、実際に利用者の方が農業を行っている様子を見たり、障害がある方が農作業しやすいような配慮についての説明を受けながら見学をさせていただきました。また、勉強会では、管理者の方から経営のノウハウや活動拡大の工夫、実際の生の苦労話などを聞くことができました。それを受けて、参加をされた２施設と一緒にざっくばらんに意見交換を行って、「実際、具体的なイメージが付いた」ですとか、「有意義な情報が得られた」との感想をいただきました。 【川口議員】農福連携は続けることがかなり難しい案件だと思っている一方で、この農福連携のその姿というのは、GREEN×EXPOにすごくいい影響を与えるものであると思う。ただの農業だけではなくて、共生社会もつくり上げることができ、農業に加えて花と緑の祭典であるGREEN×EXPOにおいて、皆でつくり上げることができるということを瀬谷区が発信することができれば、更に更にそのGREEN×EXPOの価値が高まると思っている。区役所で今行っていることによって、民間事業者と農家の繋がりや絆が更に強くなると思っている。御苦労が沢山あると思うが、継続して取り組んでいただくようお願いしたい。 　イルミネーションについて期間を延長していただいたことについて、防災や防犯にも繋がるというところで、感謝の気持ちを伝えさせていただきたい。

	最後にムクドリについて、駅前にはいなくなったものの、電線にかなりの数がとまっているのを見かける。鷹匠による追払いがどの程度影響力を持っているのか伺いたい。 【寺井土木事務所副所長】瀬谷駅の北口広場の木にムクドリが集まってしまうため、昨年度は鷹、今年度はフクロウと鷹の両方を使って追払いを実施しました。確かに、基本的には駆逐ではなく、追い払いですので、数自体を減らすものではなく、他に散ってしまうという可能性はあります。野性の鳥が相手という難しさがあり、なるべく人が通るところには集まらないようにということで行っているため、他に散ってしまうことは仕方がないところであると考えています。ただ、今後経過を見つつ、一過性でまた飛来してしまうようでしたら、その対策も含めて考えていきたいと思いますが、まずは北口になるべく集まらないようにと取り組んでいます。 【川口議員】声が大きいところだけやるということにならないようにしていただきたい。 【久保議員】国際園芸博覧会、GREEN×EXPO 2027 については、各議員からも話はあったが、瀬谷区として機運醸成の視点から様々な取組を行っていることを伺っている一方で、横浜市全体からの様々な市民の声からすると、まだ知らない人も結構いるのが現状であると正直感じている。様々な取組を聞いてはいるが、一つ伺いたい。区のＰＲにおいて様々な媒体が用いられていると思うが、ホームページやＳＮＳの活用をするに当たって、その情報発信のツールについても、もう少し色々工夫をこらしながらやっていくことも必要であると思うが、現状どのような考え方で行っているのか伺いたい。 【吉原区政推進課長】ご指摘のとおり、現在において様々なツールを駆使して情報発信していくというのは大変重要だと思っています。特に GREEN×EXPO 2027 を控えている瀬谷区においては、正にそれが肝の一つになるかと思っている中で、従前のホームページ等に加えて、例えばＸ、旧 Twitter やインスタグラムを使って積極的に情報発信をしています。例えば昨年の瀬谷フェスティバルの状況について、当時の Twitter で動画配信を行うといった新たな試みなども展開しています。引き続き様々な媒体を利用しながら、効果的な広報を進めていきたいと思います。

	【久保議員】もうあっと言う間に博覧会、GREEN×EXPO を迎えるので、様々な媒体がある中で使えるものは活用してしっかりと機運醸成に努めていただきたい。 資料 31 ページの交通安全対策事業に関して、これまでも交通安全については様々な立場で議論がなされていて、ブロック塀についても第３期耐震改修促進計画が策定されるなどしているが、話を聞くとスクールゾーンの安全、交通安全に対する瀬谷区民の意識は高い。自身もＰＴＡをやっていたが、やはり交通安全対策に関しては様々な御意見があった。 現状、スクールゾーンについて様々な協議会等から声が上がってくるかと思うが、その要望をどのように受け止めて、実際どのように対応しているのか伺いたい。 【富永土木事務所長】土木事務所も道路管理者としてスクールゾーン対策協議会に参加させていただいています。御要望いただいたものについては、交通管理者である警察、道路管理者である土木事務所がそれぞれ役割分担しながら回答していると認識しています。今年もスクールゾーン対策協議会の回答が地元に行われましたが、主に民有地からの樹木の張り出しや雑草で歩きにくいであるとか、塀が倒れそうなどの御要望も沢山いただいています。心苦しいのですが、民有財産である樹木や塀などについては道路管理者として対応できない部分もあり、必ずしも御要望にお応えしきれていないところもあるかと思っています。道路の線が薄いとか交差点マークを付けるといったことについては、できる限りお応えをさせていただいているところではありますが、道幅が狭くてなかなか対応が困難な箇所については、どのようにしたら安全性が高めていけるのか、我々も日々悩んでいるところです。 【久保議員】実際、瀬谷は非常に狭い道が多く、今すぐに変えることは難しいとは思うが、御苦労されている中でもしっかり取り組んでもらいたい。 今年度道路局においてＥＴＣ2.0 を用いた取組があって、その中の一つとして原小学校が対象になっていたかと思う。これまでも瀬谷柏尾道路を含めて、様々な対策を求める声があり、それをお伝えしてきたところだが、現状その進捗について伺いたい。 【富永土木事務所長】御指摘のとおり、原小学校は市内４校設定されているうちの、瀬谷区で唯一の重点推進校ということになっています。原

	小学校の校区はものすごく大きいのですが、ＥＴＣ2.0は速度データも持っているということがありまして、速度の抑制というのも事故減少に効果的ということがあります。道幅が狭くてなかなか他区で実施しているような対策も取りにくいところがありますが、ハンプという道路に出っ張りをつくる取組を原小学校校区でも１か所考えており、宮沢地区において設置予定です。それ以外では、カラー舗装ですとか交差点を見やすくする着色を実施する予定です。工事を全体で３つに分けて、主に線を引いたり着色する工事と、ハンプを作る工事、区画線を引く工事がありますが、３つに分けたそのうちの２つがつい先頃契約に至り、今年度中に対策を進めていく予定です。ハンプや交差点等の着色は、区内業者に受注していただいていて、今後具体的な現場施工に入っていきたいと思います。 【久保議員】順調に進んでいるということで安心した。例えば阿久和坂上の交差点について、カラーでやっていく、枠を作るというようなことも聞いているが、道が広げられないところもあるので、実効性のある対策を重ねてお願いしたい。個人的にはＥＴＣ2.0だけではなく、もう少し違うＡＩの活用もあるとは思っているが、道路局としてはそのような仕組みで進めていくということであるので、土木事務所としてはそれにしたがって頑張ってもらいたい。 34ページの区民意識調査について、６月に実施して公表が２月ということで、現在集計中であるとは聞いているが、中間報告として分かる範囲で、実際どのような声があったのか。そうした声をしっかりと次年度の区づくり推進費予算などにも生かしてもらいたいところだが、現状を伺いたい。 【吉原区政推進課長】現在調査分析中で、恐縮ですが、速報値という形での本当に概要ということになります。今の住まい周辺の環境に満足しているのか、住み続けたいのか、そのほか、今日も台風が来ていますが、防災の関係やデジタル、更にはGREEN×EXPOの関係など様々な質問項目を設けさせていただきました。いただいた回答を見ると、幾つか区役所としても考えなければいけないところなどもあるのかなというデータも出ていますので、そういったものを今後の事業展開などに生かせればと思っています。ただ、今の住まいの周辺の環境や住み続けたいということについては、基本的には良い回答が多く得られました。「現在のお

	住まいに住み続けたいと思いますか」という質問に対しては、「今住んでいるところに住み続けたい」という回答が７割で、「瀬谷区内の違うところに住みたい」という回答も５パーセントぐらいありましたので、合せて大体４分の３程度の回答が瀬谷区に引き続き住み続けたいということで、区民の皆様から一定程度の評価はいただいているものと思っています。 【久保議員】良い評価をいただいている声はしっかり伸ばしてもらいたい。 　防災について、冒頭、瀬谷区として境川の浸水の話もあったところだが、ハザードマップも改訂され、目標水準も予測対応型のその公表をしっかりと想定しているということになった。実は区民の方から、ハザードマップに反映してないところまで水が上がったりするというようなことも実際あると聞き、環境創造局の下水道を管轄する部署に伝えたところ、確かに反映していなかったところがあるということであった。近年、時代とともに風水害への対応も変えていかなければならない中で、そうした箇所は実際にあるのか。 【富永土木事務所長】ハザードマップに反映されない、道路冠水など雨水が溜まりやすい場所というのは、実は土木事務所にも沢山の情報があります。ハザードマップの公表を行う前に、局から 18 区の土木事務所に対して確認依頼が来ますので、土木事務所で把握している情報は伝えています。そのような雨水が溜まりやすい場所については、議員の皆様からいただく情報も多々ありますけれども、予め分かっているところと併せて、事前に掃除をしたり、雨が降る前にパトロールで確認したりすることで対応させていただいています。区内にそのような箇所は沢山残っていますので、引き続き情報をいただければと思います。 【久保議員】しっかりと対応してもらいたい。 　43 ページの「ぽかぽかプラザ」支えあい推進事業について、当該施設の在り方については、管理者や自治会の方、阿久和団地の組合など地域の様々な方からいろいろな声が寄せられている。現状ここについてしっかりと区としても取り組んでいることは認識しているが、地域と連携しながらこの事業を進めていくに当たっての課題感などについて伺いたい。 【小西高齢・障害支援課長】この施設については、しばらくの間ずっと

	利用者が減っていたということもあり、区役所としても地域の皆様の力を借りながら、会合、運営委員会を新たに立ち上げたり、分科会を立ち上げるなどの支援をしてまいりました。地域の皆様、社会福祉協議会、ぽかぽかプラザの中にある事業者さんなどから貴重な御意見をいただいており、それらの皆様と一緒に定期的な打合せを行っています。また、高齢者から子育て世代、障害者なども含めて地域全体の支えあいの推進になるということを目的に取り組みを進めていますが、高齢者の皆様がなかなか集まれないということもあって、この５月から介護予防の拠点として介護予防のプログラムを取り入れています。これが人の呼び水になって、来られた方々から他の方に勧めたいという声をいただき、利用者も増えてきています。一方貸し室で、給食、こども食堂を利用いただいている団体もいらっしゃり、非常に多くのお子さん方が利用されています。そういう意味において、先ほど申し上げた、目的とする多世代の方々の利用に資するような形で、これからも地域の皆様と一緒に検討しながらサポートしていきたいと思っています。 【久保議員】瀬谷区は公営住宅が多いが、その中で阿久和団地も高齢化が進んでおり空き家もそれなりに多い。先ほど他の議員からも高齢化による地域力の低下という話があったが、そうすると自治会のコミュニティ全体の力が落ちてくる。人が少なくなるということは、自治会のお金も少なくなるということで、色々負担も増えてくる。実は今話のあったこども食堂にも行かせていただいたが、時間がかかるやもしれないが、若い世代を含めた幅広い世代を受け入れるような地域コミュニティづくりという視点を持ちながら、また外国人の方もうまく巻き込みながら取り組んでもらうようお願いしたい。 　若い世代も大事だが、高齢者の認知症について、国で認知症基本法が成立して、これは認知症になった方も尊厳を持ちつつ生きていくことが大事であるという視点に立つものである。国で法が定められたので、今後地方の視点からも具体的な取組が様々出てくると思う。横浜市では認知症疾患医療センターが２区に１つ、９区に設置されており、瀬谷区においては４年ぐらい前に相原病院に設置されている。認知症に対して早期発見、早期治療をしっかり心掛けていくというような取組も大事かと思うが、区民を含めてどのように連携しながらやっているのか伺いたい。

	【小西高齢・障害支援課長】おっしゃる通り、相原病院では認知症疾患医療センターとして広く鑑別診断や初期対応を行っていただいております。区内にある病院ということと、相原病院が内科のほか精神科、心療内科の診療科目に対応していますので、精神疾患で内科の疾患もある方がなかなか精神科単科では受け入れていただけないこともある中で、区内に内科もある精神科病院として診療に当たっていただいていることは非常に有り難いと思っています。相原病院には非常に幅広く御協力をいただいており、例えば医療・介護の関係者で構成する医療連携や認知症の医療連携の検討会にも入っていただいているほか、キャラバンメイトの連携会にも御参加いただいています。そのほか、院長先生には区の精神保健福祉相談として、定期的に開催している相談会にもおいでいただいて、相談対応していただいており、認知症だけではなく精神保健医療全体に関する総合支援をいただいています。様々な場面でご協力いただいていますので、良い関係で御支援をいただきながら連携しています。 【久保議員】治療に来ない方の早期発見、早期治療、これは別に取り組んでいただきたいと思う。 　最後に、26ページの窓口サービス向上事業から派生する形になるが、今年度市民局で取り組んでいる、亡くなった方の手続のワンストップ化の窓口について、鶴見区とともに瀬谷区がモデル区として選定されたかと思う。これまで、亡くなった後の手続が非常に煩雑で時間もかかるという様々な声があって、党としても窓口のワンストップ化をずっと掲げてきた。そうした中、モデル区として瀬谷区が選ばれたということは、私としても嬉しく思っているが、現状どのような取組でやっていくのか伺いたい。 【松田総務課長】御遺族の方など手続をされる方が、亡くなられた方が受けていた行政サービス全てを把握されていない場合が非常に多いため、現状では総合案内や他の窓口に尋ねるというようなことが想定され、多岐にわたる手続の一連全てを御案内するということはなかなか難しいところです。モデル区として瀬谷区で試行設置することになりましたお悔み窓口では、まず御予約をいただいて、区役所ではその後、予約当日までにその方に必要な該当の手続を抽出させていただきます。予約された方は、こちらで予め抽出させていただいたとおりに当日窓口を回っていただくことによって、区役所の中で迷うことが少なくなると想定

	されます。今後は更に、申請書の作成補助も目指していくことも現在検討中ですが、いずれにいたしましても御遺族の皆様の気持ちに寄り添いながら、モデル区として皆様のニーズをしっかりと受け止めて実施していきたいと考えています。 【久保議員】最後に植木区長に伺いたい。このモデル区として設置される窓口については、ワンストップ化ということで、窓口にいらっしゃった来庁者がその窓口で全て完結できることが本当は一番良いのだが、場合によってはいろいろな手続があるため、いわゆるコンシェルジュ的な機能になるのではないかと思う。すぐにはできないと思うが、最終的には１つの窓口で完結するような方向を目指しながら取り組んでもらいたいという気持ちがある。その点について区長の考えを伺いたい。 【植木区長】今回はまず、今まではリーフレット等での御案内しかなかったものを、窓口での直接対面によって御心配なことを伺いながら進めさせていただくことになると思います。やはり御家族が亡くなられて精神的にもお辛いときに、あまり色々なお手続があるのも、ということがありますので、まず私どもの方で、どこまでどうできるのかということも試しながらのモデル区ということになると思いますが、対応させていただきたいと考えております。 【久保議員】最大限の御配慮でよろしくお願いしたいと思う。 ○議題（４） 【花上議員】今、御説明いただいて、大変重要な基本的な考え方が書き込まれていると思った。山中市長が先日、来年度の予算編成に向けて職員に対して文書を出したが、冒頭に「市民の声を大切にする」ということが書き込まれていた。我々市会議員も市民から選ばれて議員を務め、山中市長も市民から選ばれて市長職を務めている。基本は市民から選ばれた我々議員、あるいは市長であるということなので、常にその意識はしっかりと心の中に刻み込んでおかなければならない。そこで、特に来年度の予算編成に向けて、市民の皆さんの声を大事にする市政を進めていこうという姿勢を明らかにしたということは、市長のこの予算編成に際しての心構えである。市民の声というものをそこまで強調したことは過去なかったと思うが、今回は特にその点について書き込まれたことは大変大事なことであると感じた。ということは、横浜市全体でもそうで

	あるし、18区それぞれの区役所が区民の声に基づいた区政を進めていく視点が極めて重要なことを認識させられたのであろうと思う。 　それを受けての今の説明だと思うが、是非この基本的な考え方に基づいて、これから来年度の予算編成に向けて瀬谷区役所の職員の皆さんが力を合わせて頑張っていただきたい。我々議員も、皆さんと御一緒に区民の幸せづくりに今後も邁進していきたいという強い思いを持っており、ともども頑張っていきたいと思っているのでよろしくお願いしたい。 【川口議員】区役所も我々も足元を固めるというところ、そして根を張っていくというところを重点に置きながら活動していると思っている。先ほどからお話しさせていただいているGREEN×EXPOが開催される瀬谷区は、未来に向けて本当に本当に大きく広がる、そんなまちであると考える。足元を固めるだけではなく、未来も見据えなければならないという、非常に難しい仕事を我々も皆さんもやっていくことになると思う。GREEN×EXPO 2027だけではなく、恐らくこの秋、その跡地利用のテーマパークの話も詳細が明らかになるのではないかと思っている。そういったテーマパークとの向き合い方も、区役所としても考えていかなければならなくなってくるタイミングがこの秋から始まると思っている。市民の、区民の皆様の反応も含めて、これからも明るい未来のために我々も尽力させていただきたいと思っているのでよろしくお願いしたい。 【久保議員】GREEN×EXPO 2027について他の先生方の言うとおりだと思うが、１点だけ、近年特に重要だと言われている脱炭素社会への取組を区民の皆様と一緒に進めるという視点もある。上瀬谷については、横浜市の地球温暖化対策実行計画において脱炭素化の象徴であるモデル地区として明記されているかと思う。その意味で、市民、区民の皆様とともに今ある自然を生かすという視点、その自然を最大に生かすという視点を持ちながら、脱炭素社会に向けて是非取り組んでもらうようお願いしたい。
備　　考	